



令和5年度 特色ある学校づくり

佐世保市立福石小学校

佐世保市大宮町32番1号

校長	末 竹 実
児童数	249名 (R5・5・1現在)
学級数	13学級

✉ fukuishies@city.sasebo.ed.jp

<http://www.city.sasebo.ed.jp/esfukuishi/asp/default.asp>



「ふれあいで培う豊かな心と育てる学力」

1 目的

今年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類になったことを受けて、今まで制限されてきた見学、体験や交流活動を実施し、地域とのふれあいや学び合いを通して、「思いやりの心」「他者とかかわる力」「確かな学力」を高めることに取り組んできた。校内研修では、「生き生きと学ぶ児童の育成をめざして～基礎基本を重視した表現力を高める手立てを通して～」というテーマの下、低・中・高学年部会を中心に授業研究に取り組んだ。研究授業の際には、ICT 機器や児童用端末の活用についても研修内容に取り入れ、教師自身の ICT 活用能力の向上を図るとともに、子どもたちの児童用端末の活用能力の向上にも取り組んだ。様々な表現ツールを活用し、学年の発達段階に応じた表現力を高める工夫について研究した。また今年度は、子どもたちの心に響く体験活動を実施した。

福石小学校伝統の「花いっぱい運動」では、植物と積極的にかかわる活動による美しい環境づくりに力を入れ、これまでの取組を継続し、「福石小ならではの」教育活動を実践した。

また、以下のような目標のもと、ふるさとを愛し、互いの絆を深めていくとともに、心豊かな人間関係の育成と生きる力の育成をめざしてきた。

- (1) 変化の激しい社会を生きぬく「確かな学力」の定着を図り、夢(目標)に向かって ICT を最大限に活用し、自ら課題を見つけ、解決していこうとする意欲を高める。
- (2) 様々な人々とのふれあいを通して、他者との関わり方やコミュニケーションの仕方を学び、感謝する心ややさしい思いやりのある心を育む。
- (3) 「ふるさと(地域)」に目を向け、地域のよさや魅力を発見し、地域での体験や交流活動を通して、よりよい地域の未来をつくっていこうとする心を育てる。

本校教育目標

「思いやり」と「やる気」と「元気」のある子どもの育成

2 特色ある学校づくりの取組

◇思いやりのある子

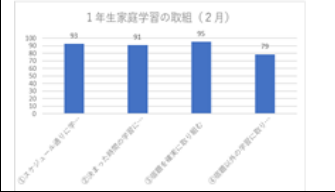
対象：全学年 時期：通年 活動場所：学校、校門	○学校、家庭及び地域で連携して「学校一徳運動～気持ちのよいあいさつと言葉づかい」に取り組んだ。 ・代表委員会で決まった各学級の挨拶への取組について期間を決めて、提案した学級が主体となって取組を呼びかけた。	
対象：4 学年 時期：6 月 活動場所：長崎市（平和公園・原爆資料館）	○平和学習（総合的な学習の時間） ・平和案内人を依頼して、説明を受けながら、原爆資料館、平和公園で体験学習を行う。 ・見学終了後、学んだことをテーマごとにまとめ、平和集会で全校に向けて発表した。	
対象：3 学年 時期：月 活動場所：教室、体育館、廊下	○福祉学習（総合的な学習の時間） ・社会福祉協議会と連携して、車いす体験、高齢者体験を通して、障がいのある人や高齢者について理解し、誰もが住みよい町づくりや思いやりのある行動とはということについて考えを深めた。	
対象：1 学年、5 学年 ②時期：1 1 月、2 月 ③活動場所：教室、体育館、東公園、大黒保育所	○保幼小の連携を図り、コミュニケーション能力を育む。 ・1 1 月に保育所や地域の公園で、1 年生が保育園児と一緒に秋探しをして交流をした。 ・来年度福石小学校に入学してくる年長児を小学校に招き、5 年生との学校探検や1 年生との昔遊びをしてふれあった。	
対象学年：全学年 時期：通年 活動場所：あおぞら広場	○花いっぱい運動 ・1・6 年の交流活動として、花壇づくりや花植えの活動を行った。 ・学年ごとに花壇の世話をを行った。	

<成果>

今年度は、実際に平和公園や原爆資料館を訪れるだけでなく、平和案内人の説明を受けながら見学することで、より深く実感を伴いながら、原爆の恐ろしさ、被爆者への思いを受け、平和な世の中にするためにどんなことをすればよいのかについて考えを深めることができた。また福祉学習では、実際に車いすに乗る側、介助をする側になって体験をしたり、お年寄りの立場に立った体験をしたりすることで、相手を思いやることの大切さを実感することができた。保幼小の交流では、普段お世話をしてもらう側の1年生が、お兄さん、お姉さんとして、年下を思いやりながら、活動をするという経験ができた。5年生は、自覚をもってお世話することができた。

花いっぱい運動では、異学年との交流を行い、継続して世話をすることで、卒業式の飾りにするために大切に育もうとする心を育てることができた。

◇やる気のある子

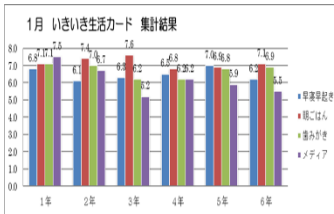
対象学年：2・3 学年 時期：4月 活動場所：各教室	○学力調査の実施 ・4～6学年が年度当初に学力調査を実施するのに合わせて、2・3学年児童も習得した学力の実態把握と授業改善のための基礎資料となる学力検査を行った。	
対象学年：全学年 時期：通年 活動場所：各教室	○授業改善 ・学力テストの結果について、研究主任を中心に全職員で分析し、各担任が授業計画に活用した。（授業デザイン SASEBO の実践、端末活用等） ・研究授業では、児童用端末の活用を取り入れた授業実践を行った。 ・児童用端末活用のきまりを作成配布し、家庭での活用を促進した。	
対象：全学年 時期：通年 活動場所：各教室	○家庭学習の充実 ・家庭学習を児童が計画的に進められるよう家庭との連携を通して、家庭学習の充実を図るため、国語、算数を中心に基礎・基本を定着させるよう努めた。	
対象：全学年 時期：通年 活動場所：各教室 地域	○ふるさと教育の充実 ・令和6年度に創立百周年を迎えるにあたり、記念事業に児童のアイデアを取り入れ、母校やふるさとについて学ぶ時間を位置づけた。 ・地域の人、もの、ことを活用した体験、交流学習を実施した。 ・総合的な学習のカリキュラムの中にふるさと教育を位置づけた。 ・6年生がイメージキャラクターを考え、創立百周年事業を盛り上げるのぼり旗を作製し、校舎周辺や地域に立てた。	 

<成果>

全職員で学力調査の結果を分析し、子どもたちの実態を把握し、身に付けさせる力、ゴールの姿を明確にし、目的にあったかく活動や対話する活動を取り入れ、生き生きとやる気をもって学ぶ授業づくりを全職員で共通理解をして実践することができた。研究授業では、効果的な児童用端末の活用についても、学年の実態に応じた実践を行った。パソコン活用のルール等についてもカードを作成して一人一人に持たせ指導をした上で、家庭への持ち帰り、家庭学習での活用が進み、特に高学年において、児童用端末活用の幅が広がった。その結果、学級活動や委員会活動においても児童自ら端末を活用した活動が行われるようになった。

生活科や総合的な学習の時間において、ふるさと教育を位置づけたことで、自分の育った町への興味が増し、自ら課題を見つけてやる気をもって学習に取り組む子どもの姿が見られた。その成果物を掲示することで、下学年は、学びの見通しをもつことができた。

◇元気のある子

対象：全学年 時期：通年 活動場所：運動場、体育館	○フィットネスチャレンジと外遊びの励行 ・年間を通して、体育の授業の初めにジャックナイフストレッチを行うなど、各学年の実態に合わせたフィットネスチャレンジに取り組んだ。	
対象：全学年 時期：通年 活動場所：各教室、体育館	○学校保健委員会との連携 ・健康な心と体についての講座（思春期講座）を実施し、健康への理解を深め実践につなげた。 ・保健委員会の活動においても、生き生き生活カードを活用して、健康で安全な生活への取組を呼び掛けた。	1月 いきいき生活カード 集計結果 
対象：3～6年 時期：6・7月、1月 活動場所：プール、運動場	体育授業サポーター派遣事業の活用 ・3～6年生の水泳指導にサポーターを活用して、専門的な指導を受けることで、その子の状況に合わせた水泳指導を実施した。 ・5・6年生の陸上指導において、サポーターを活用し、より専門的な走る指導を行った。	

<成果>

今年度は、体育授業サポーター派遣授業を水泳指導と陸上運動で活用した。専門的な指導力をもった方に指導を受けることで、より効果的な運動の仕方を身に付けることができた。また担任だけでなく、サポーターが授業に入ることで、その児童に適した指導をすることができ、子どもたちの意欲が高まった。

元気のある子の育成のためには、基本的な生活習慣を身に付けさせる必要がある。その際いきいき生活カードを活用し、家庭と連携した生活態度チェックを行うことで、子どもだけでなく保護者への啓発を行うことができた。

今年度は、6年生において思春期講座を実施した。思春期の心の不安定さについて、理解を深めることができた。心の不安をかかえている子どもたちにとっては、自分自身と重ね合わせて、誰もが通る道として、前向きにとらえることができた児童もいた。またカウンセリング等、困ったことがあったら、相談していいのだということを伝えることができた。

5 今後の課題

今年度は、様々な見学、体験活動を実施することができた。やはり子どもたちにとっては、体験活動は感動を生む大切なものだということを実感した。今後は、見学や体験活動をより効果的にカリキュラムの中に位置付け、来年度に向けた体制づくりを行う必要がある。また「気持ちのよいあいさつと言葉づかい」については懇談会や学校支援会議の中で課題を共有しながら、学校内だけの取組として終わるのではなく、家庭や地域との連携をさらに深めていきたい。

学習指導においては、授業デザイン SASEBO を活用し、「つけたい力」を明確にした上で授業を仕組むことや児童用端末の効果的な活用について、全職員が共通理解をして研修することができた。今後は、さらに授業の充実を図るために、共通実践を重ねていきたい。合わせて、児童用端末の活用については、児童自らがルールを守って積極的に活用できるよう、情報モラル教育を適宜位置付けながら進めていきたい。ふるさと教育についても来年度継続できるよう地域の人、もの、ことについて人材題材マップを作り、総合的な学習の時間のカリキュラムの中に位置付け、さらなる充実を図っていきたい。

今年度実施した体育サポーター派遣事業の活用は、子どもたちだけでなく、教員の指導力の向上にも効果があったので、来年度も活用していきたい。フィットネスチャレンジについては、「ジャックナイフストレッチ」は全校で実施することができた。年間を通して、学年の発達段階に応じて、全校で体力作りに取り組み、子どもたちの体力向上につなげていきたい。